２２年度の事業計画、予算案など原案通り可決

府国保連合会通常総会

本会通常総会は、３月１０日（水）、府国保連合会に３７保険者の代表が出席して開かれ、平成２２年度の事業計画案、一般会計ならびに各特別会計予算案などの議案を原案通り満場一致で可決した。

総会では、栗山正・理事長（亀岡市長）の挨拶に続いて、山田啓二京都府知事の祝辞（重松府健康福祉部副部長代読）が披露された。また、理事長表彰（被表彰者名は総会記事のあとに掲載）が行われ、被表彰者の代表１０人が紹介された。

議事に入り、議長に佐々木稔納南丹市長、議事録署名人に森清美京都府酒販国民健康保険組合理事長と伊藤義浩京都市食品衛生国保組合理事長の２人を選任して議案審議を行った。

議案は、平成２１年度の報告承認事項１２件、同年度報告事項１件、２２年度の議決事項１２件、同年度報告事項２件の計２７件。いずれも原案通り可決、承認した。

可決された新年度の事業計画では、現行事業を継承し、推進するとともに、新・保険者事務共同電算処理システムの円滑な運営と共同処理の運用拡大並びに後期高齢者医療請求支払システムの円滑な運営、レセプト電算処理システムによる二画面審査の充実強化を図るとともに平成２３年度からのレセプト電子請求の原則化に備え、保険者とのネットワークを介した業務の充実を図る。

さらに、平成２３年５月稼動予定の全国統一システム(国保中央会開発)のレセプト審査支払システムの円滑な導入に向けて準備を進める。

また、平成２２年１０月８日、９日に開催される、第５０回全国国保地域医療学会の成功へ向けて、全国国民健康保険診療施設協議会及び京都府など関係団体と連携を深める。